EUROBEST

Setokuchi

ユーロベストS-30

特許第3787595号「高耐久性シラス瓦およびその製造方法」

驚異の防水性能と引張耐力を持つ
耐風耐震性に優れた「高機能瓦」

施工マニュアル

(有)瀬戸口瓦工場

2014年06月05日作成
2018年12月03日更新

目 次

1 安全上のご注意 **2**

1.1 安全作業のために 2

1.2 安全作業 2

2 施工後の保守・点検 **3**

3 製品概要 **4**

3.1 サン瓦 4

3.2 役物瓦 4

3.3 副資材 5

3.4 役物瓦の使用箇所 7

4 屋根寸法・下地の施工法 **8**

4.1 下地の瓦割り付け・工法の種類 8

4.2 ルーフィングの施工 10

4.3 縦桟・瓦桟の取り付け 11

5 標準施工法 **12**

5.1 軒先の納まり 12

5.2 サン瓦の固定（スルーホール工法） 16

5.3 瓦の差し替え方法 18

5.4 ケラバの納まり 19

5.5 本棟瓦の防水処理（切妻・寄棟共通） 20

5.6 本棟の強化棟金具の取り付け（切妻・寄棟共通） 21

5.7 本棟の納まり（切妻） 22

5.8 本棟の納まり（寄棟） 23

5.9 片流れ棟の納まり 24

5.10 隅棟の納まり 26

5.11 壁際の納まり 27

5.12 谷の納まり 28

本施工マニュアルのご使用にあたって

- 本施工マニュアルには、ユーロベスト S-30 を正しく安全にお使いいただくための重要な説明を記載しています。ユーロベスト S-30 の設計・施工を行う際は、事前に本施工マニュアルをお読みの上、ご使用いただきますようお願いいたします。
- 本施工マニュアルには、製品品質や施工品質を確保するための方法として、代表的な例を記載しています。弊社製品の標準施工要領を示すもので、地域・住宅施工業者などにより施工方法や使用部材が異なる場合があります。
- 本施工マニュアル内に記載している数値は標準設定値です。実際の納まり状況などにより前後することがありますが、その際は記載された寸法・規格と同程度で施工に支障のない範囲のものを使用してください。
- 本施工マニュアル内で寸法・規格の明記がされていない部材については、「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」の仕様に準拠したものを使用してください。
- 本施工マニュアルは、基準風速が 38m/s 以下の地域におけるものです。基準風速が 40m/s 以上の強風地域や特別な配慮を要する地域については、弊社までご相談ください。
- 本施工マニュアルは、瓦屋根工事技士、一級かわらぶき技能士、二級かわらぶき技能士、およびこれらと同等の施工能力を持った専門工事業者を対象としています。
- 本施工マニュアルは、法改正などにより予告なく変更する場合があります。施工の際には最新の内容をご確認ください。

ユーロベスト S-30 の特徴

軽量で断熱性に優れた屋根材

軽量多孔性に優れた複合素材を特許技術（鹿児島県との共同開発、特許 第 3787595 号）で配合・加圧成型し、緻密な構造にして硬化させることで、厚みを保ったままの軽量化を実現。軽量で高強度、吸水率が低く耐凍結融解性にも優れています。さらに素材の多孔質構造の効果により断熱性能が高く、瓦裏面に広い空気層を持つ形状により結露が発生しにくいため、家屋への負担軽減と省エネ効果が期待できます。

一寸勾配屋根（約 5.7 ゜）でも施工可能

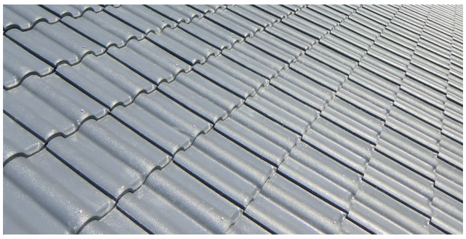
ユーロベスト S-30 は、瓦の谷部のエジェクター機能（特許 第 2542205 号）が水を前方に飛ばし、雨水の巻き込みによる逆もり現象やゴミの侵入をストップします。そのため、瓦では不可能とされていた超緩勾配の屋根にも施工できます。

耐風耐震性に優れた留付工法

ユーロベスト S-30 は、2 枚の瓦を 1 本のビスで同時に留め付け固定するスルーホール工法（建設省技術評価 第 94302 号、特許 第 3532990 号）に対応しており、台風、地震などの厳しい気候条件に対し、優れた耐久性を発揮します。

高温多湿な日本の風土に最適

高耐候性塗料は、塗膜の劣化を促進する紫外線と水の影響を最大限に阻止する効果があります。さらに防カビ・防藻性に優れているので、高温多湿な地域にも最適です。



抜群の性能と環境への配慮

国内最高クラスの耐風性能を備えたユーロベスト S-30 は、近年の大型台風でも直接被害がなく、その耐風性能の高さが実証されています。また、仮葺き後に留め付けできるスルーホール工法に対応しているので、手間がかからず施工性に優れています。さらに自然素材を主成分とする無機物質からなるので、リサイクルや処分時に環境への負担を最小限に抑えることができます。

1　安全上のご注意

工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく工事してください。

1.1　安全作業のために

■ 作業開始前の点検・確認

- 作業服は動きやすく身体にあったものを正しく着用してください。
- 保護帽はきちんとかぶり、あごひもは確実にしめてください。
- 安全帯（命綱）と滑りにくい作業靴を着用してください。
- 健康状態に注意して作業してください。職長は作業員の健康状態を把握し、体調の悪い者には交代を命じてください。
- グラインダーやサンダーでの切断時には、防塵マスク、保護ゴーグルを着用してください。
- 雨天、強風、降雪時など天候の悪いときは、作業を行わないでください。
- 雨、霜、雪などで屋根面が濡れているときは、作業を行わないでください。

■ 安全管理

- 転落防止のため、高所作業には足場、瓦揚げ機、脚立などの設備を使用し、適当な広さの手すりを設けた作業床を設けてください。
- 転落防止のため、防護ネットを設けてください。

1.2　安全作業

■ 作業における点検・確認

- 屋根勾配、流れ長さ、地域などに適した設計基準になっているか確認してください。
- 屋根下地の施工が安全に行われているか確認してください。
- 整理整頓に心掛けてください。
- 機械工具類の安全運転の確認をしてください。
- 漏電による感電防止の措置を講じてください。
- 梯子を掛ける場所には当て木などを使い、滑らないように固定してください。

■ 現場での瓦の取扱方法

- 現場へ瓦を置くときは、置き場所が水平かどうかを確認し水平な所に置いてください。
- パレット積みされた製品のパレット単位の重ね置きは禁止します。
- 瓦のバラ置きの場合は、荷崩れしないようにしてください。

- 瓦は建屋にもたせかけないでください。
- 結束された瓦を取り扱うときは、結束バンドを持たないで瓦自体をお持ちください。結束バンドの接着不良、劣化などにより結束バンドが切れることがあります。

■ 瓦揚げ

- クレーンを用いて瓦揚げを行う場合は、クレーンの操作は必ず有資格者が行い、屋根の上で水平となるような台を設置してから作業を行ってください。
- 瓦揚げ機を用いて瓦揚げを行う場合は、瓦揚げ機の使用書に従ってください。
- 作業現場の状況に適した瓦揚げ機の掛け方をしてください。
- 瓦揚げ機の台車には瓦が落下しないような積み方をしてください。
- 瓦揚げ機の台車には絶対に乗らないでください。
- 地上で作業する者は常に頭上に注意してください。また屋根上で作業する者は台車を止める位置と合図を明確に指示し、上下の連絡を確実にしてください。

2　施工後の保守・点検

葺き上げた瓦屋根を完全な状態でお渡しし、お施主様に満足して頂くために、屋根施工後、施工事業者の方に次の点を十分にご注意頂くよう指示徹底をしてください。

- 屋根面を歩くときは、サン瓦の中央に足を置き、静かに歩いてください。瓦の合わせ目や重なり部、棟や谷、その周辺部は踏まないように注意してください。
- 足場を組む場合は、屋根面に必ず養生板を敷いてください。また、屋根面を足場にして作業する場合は、必ず養生板を敷き込んでください。
- 作業中、足場から屋根面へ跳び降りたり、物を落としたりすると、瓦にひび割れや破損が生じ、雨漏りなどのクレームの原因となりますので注意してください。
- 梯子を掛ける場合は、瓦に傷が付かないように当て木を使い、滑らないように固定してください。
- 壁面、モルタル塗り、リシン吹き付けなどの塗装作業をする場合は、屋根面をシートで養生して作業してください。瓦に付着したモルタル、塗装の汚れは補修しにくいので注意してください。
- 屋根面にシートを掛けるときは、屋根役物などに釘を打たないように注意してください。
- 工事終了後は残材などの清掃を行い、瓦の破損、不揃い、カケなどの不具合がないか点検を行ってください。不具合がある場合は差し替え、補修を行ってください。
- 輸送時や施工中についた目立つ傷は、専用塗料でタッチアップしてください。

3　製品概要

3.1　サン瓦

■ 形状寸法

品　　名	ユーロベスト S–30
寸　　法	縦：424mm　横：337mm
働き寸法	縦：364mm　横：303mm
葺き枚数	9.1 枚／ m^2　(30 枚／坪)
重　　量	32.8kg ／ m^2　(108.0kg ／坪)

■ 物理特性

曲げ破壊荷重	1500N 以上 (JIS A 5402)
吸　水　率	10 % 以下　(JIS A 5402)
耐凍結融解	異常なし　(JIS A 5402)
引 張 耐 力	450kgf ／ m^2 以上 *1

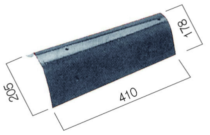
*1 建設技術評価「中層建築物における耐風型勾配屋根の開発」（スルーホール工法）

■ 適用勾配

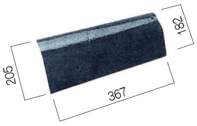
実用勾配：2 寸以上、設計勾配：1 寸以上

3.2　役物瓦

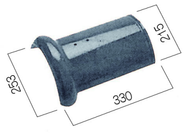
品　　名	ケ ラ バ 瓦
働き寸法	360mm
重　　量	3.7kg ／枚
適　　用	ケラバ



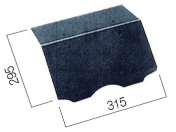
品　　名	ケラバ角瓦
働き寸法	320mm
重　　量	3.6kg ／枚
適　　用	ケラバ角



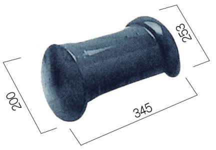
品　　名	7 寸 丸 瓦
働き寸法	303mm
重　　量	3.8kg ／枚
適　　用	本棟・隅棟



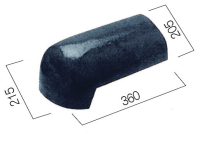
品　　名	面戸のし瓦
働き寸法	303mm
重　　量	3.8kg ／枚
適　　用	本棟・壁際



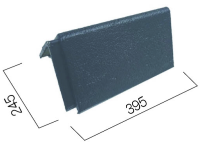
品　　名	丸　巴　瓦
働き寸法	315mm
重　　量	5.9kg ／枚
適　　用	本棟巴



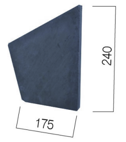
品　　名	カ ッ ポ ン
働き寸法	340mm
重　　量	4.5kg ／枚
適　　用	隅棟巴



品　　名	片流れ棟瓦
働き寸法	365mm
重　　量	4.2kg ／枚
適　　用	片流れ棟



品　　名	巴プレート
働き寸法	240mm
重　　量	1.4kg ／枚
適　　用	片流れ棟巴



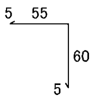
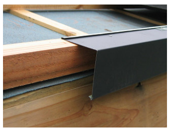
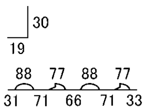
3.3　副資材

■ 瓦用ビス・瓦用釘（ϕ：外径、#12 = 2.7mm）

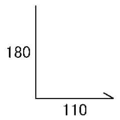
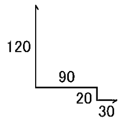
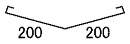
品　　名	形　　状	寸　　法	適　　用	備　　考
パッキン付 ステンレスビス		ϕ4.0 × 50mm	片流れ棟瓦	全工法共通
		ϕ4.0 × 65mm	7 寸丸瓦 （隅棟）	
		ϕ4.0 × 75mm	軒先瓦	強風地域のみ
			ケラバ瓦 ケラバ角瓦	全工法共通
		ϕ4.0 × 90mm	サン瓦 ケラバ瓦 ケラバ角瓦 片流れ棟瓦	
		ϕ4.5 × 135mm	巴プレート 7 寸丸瓦 （本棟）	
L 字型ステンレス リング釘		#12 × 75mm	軒先瓦	
ステンレス コーススレッドビス		ϕ3.8 × 51mm	ケラバ瓦 ケラバ角瓦	

- 寸法は、**瓦桟工法**（瓦桟を使用して施工）、**縦桟工法**（瓦桟と縦桟を使用して施工）ともに共通です。
- ケラバ瓦、ケラバ角瓦固定用のビスは、75〜90mm の範囲で適切な長さのものを使用してください。
- 7 寸丸瓦（本棟）固定用のビスの寸法は、強化棟金具 H40mm を使用した場合のものです。
- 7 寸丸瓦（隅棟）固定用のビスの寸法は、強化棟金具 H90mm を使用した場合のものです。

■ 専用板金（寸法は曲げ R 含まず）

品　　名	寸　　法	規　　格	適　　用
軒 先 水 切		GL 鋼板　（t = 0.35mm）	
軒 先 面 戸		メタル製、GL 鋼板 ユーロベスト専用品	

■ 一般施工用板金（寸法は曲げ R 含まず）

品　　名	形　　状	規　　格	適　　用
壁 捨 水 切			壁際
雨 押 板 金			
谷　板　金			谷

■ 木材

品　　名	寸　　法	規　　格	適　　用
瓦　　　桟	24 × 24mm	水抜き穴付き, 防腐処理材 （縦桟工法は穴無し）	軒先瓦, サン瓦
き　ず　り	7.5 × 36mm	防腐処理材	縦桟
桟　　　木	27 × 36mm		瓦座, 片流れ棟
垂　　　木	45 × 45mm		本棟, 隅棟, ケラバ
	60 × 45mm		片流れ棟
笠　　　木	15 × 45mm		片流れ棟（調整木材）
	15 × 90mm		片流れ棟、壁際

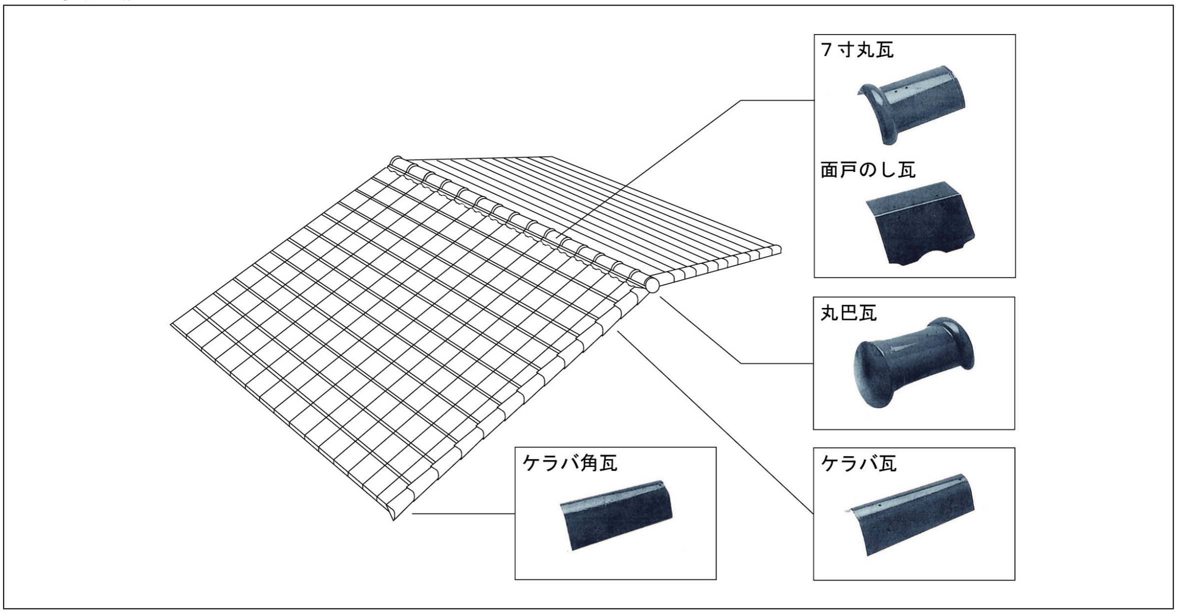
■ その他（ϕ：外径、#14 = 2.1mm）

品　　名	寸　　法	規　　格	適　　用
アスファルトルーフィング		JIS 規格 940 適合品	屋根下葺
シールドテープ	100〜150 巾 ×20m		各棟部, 壁際
シーラーパッキン	20 × 30mm		片流れ棟, 壁際
シリコン		透明またはブラック変成	防水処理
谷面戸（谷シーラー）	50 × 30 × 1000mm		谷
ステンレス釘	#14 × 38mm		板金固定
ステンレスリング釘	ϕ2.5 × 65mm		瓦桟固定
ステンレスコーススレッドビス	ϕ3.8 × 45mm		強化棟金具（側面）
	ϕ4.2 × 65mm		強化棟金具（下部）
強化棟金具	H40mm	ステンレス	本棟
	H90mm		隅棟
南蛮漆喰		CL モルタル同等品	隅棟

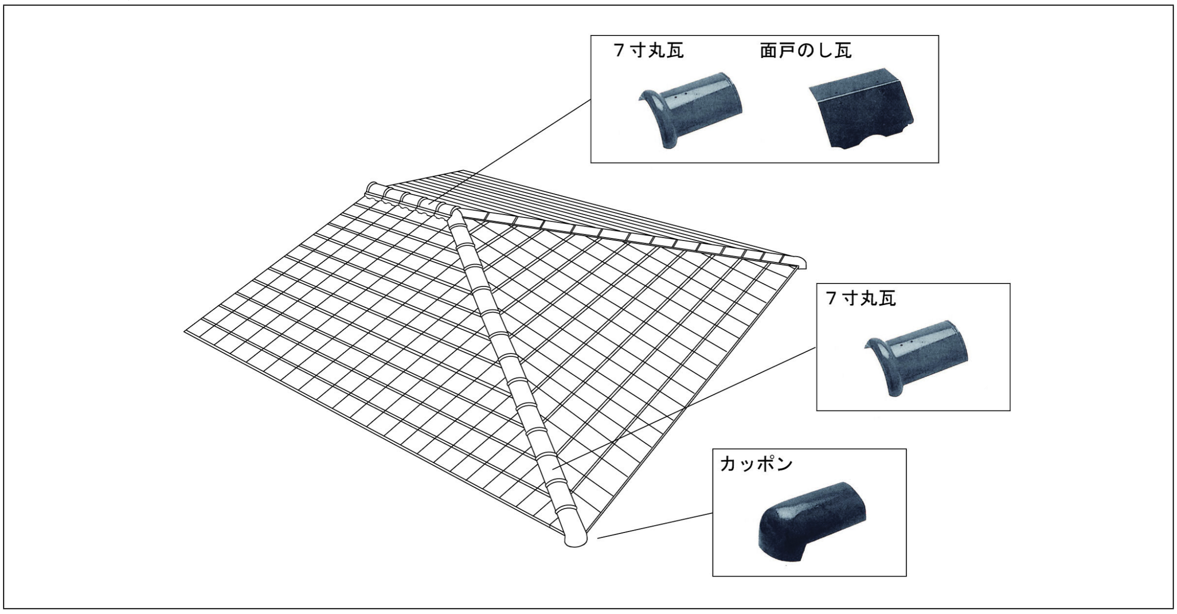
- 上記規格または同等以上の性能を有するもので施工に支障のないものを使用してください。
- 寸法・規格の明記がされていない副資材については、「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」の仕様に準拠したものを使用してください。
- 木材類の固定は、錆びにくく施工に支障のない釘またはビスを使用してください。
- 瓦桟の寸法は正確には尺貫法で8分×8分（$= 24.24 \times 24.24$mm）となります。

3.4 役物瓦の使用箇所

■ 切妻屋根



■ 寄棟屋根

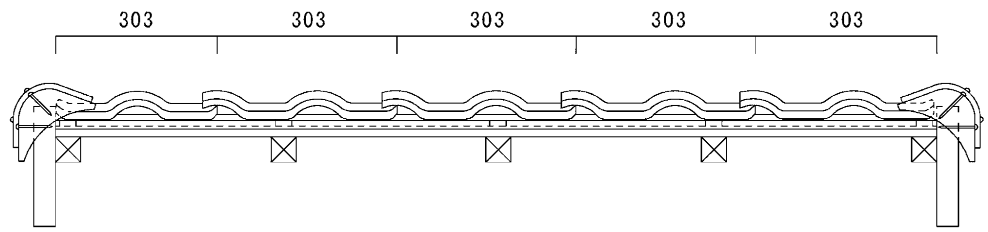


※片流れ屋根の役物瓦の使用箇所は、後述の「片流れ棟の納まり」を参照してください。

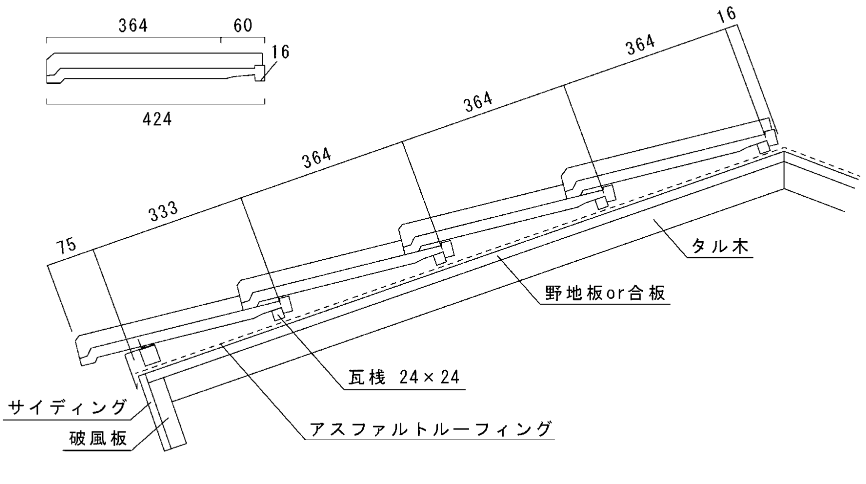
4　屋根寸法・下地の施工法

4.1　下地の瓦割り付け・工法の種類

■ 桁行寸法



■ 流れ寸法（瓦桟工法）



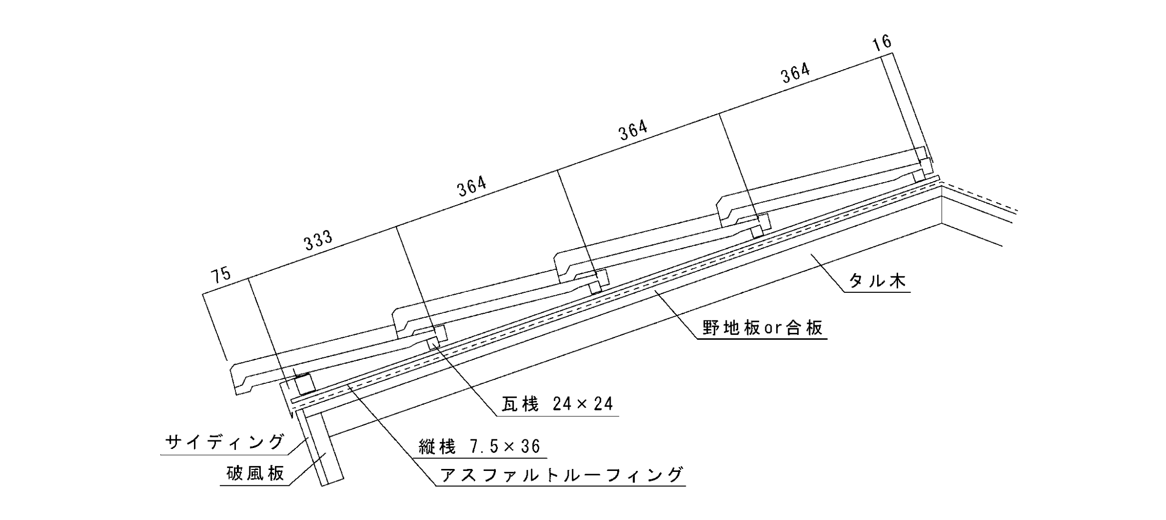
- 下地の瓦割り付けは次の基準で行ってください（軒の出 75mm の場合）。

  桁行寸法：破風板の内側から内側をサン瓦の働き幅 303mm の倍数にしてください。割り付けが悪い場合は、葺き始めまたは葺き終りを 303mm の半分にして調整してください。

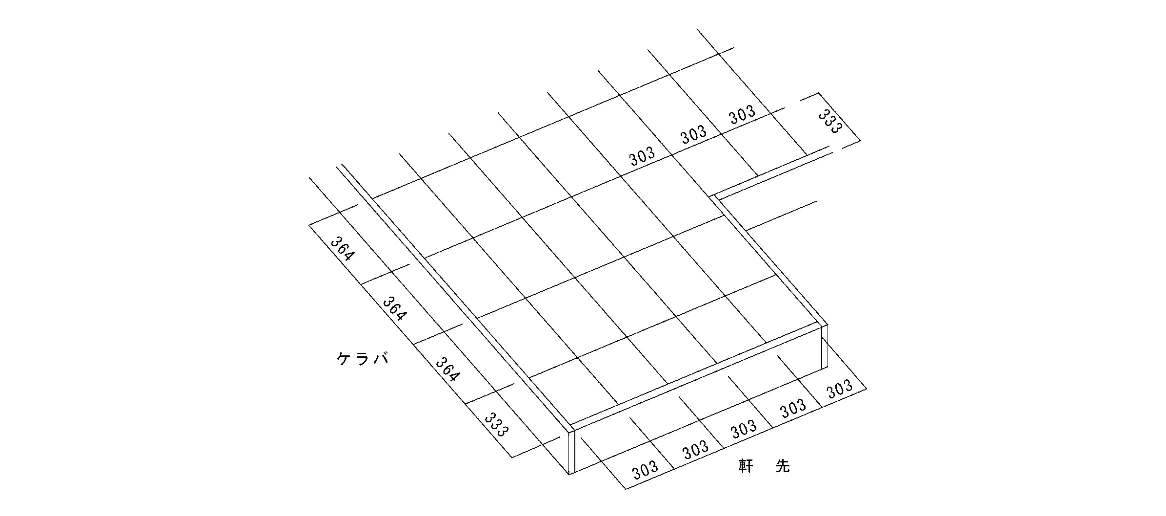
  流れ寸法：軒先の先端から棟芯までをサン瓦の働き長さ 364mm の倍数から 15mm（軒の出 75mm-重なり部 60mm）引いたものにすると、瓦を切断する必要がありません。

- 軒の出の標準値は 75mm ですが、施工条件が設計図書に示された内容と異なる場合は、現場代理人と協議のうえ決定してください。

■ 流れ寸法（縦桟工法）



■ すがる部分の割り付け



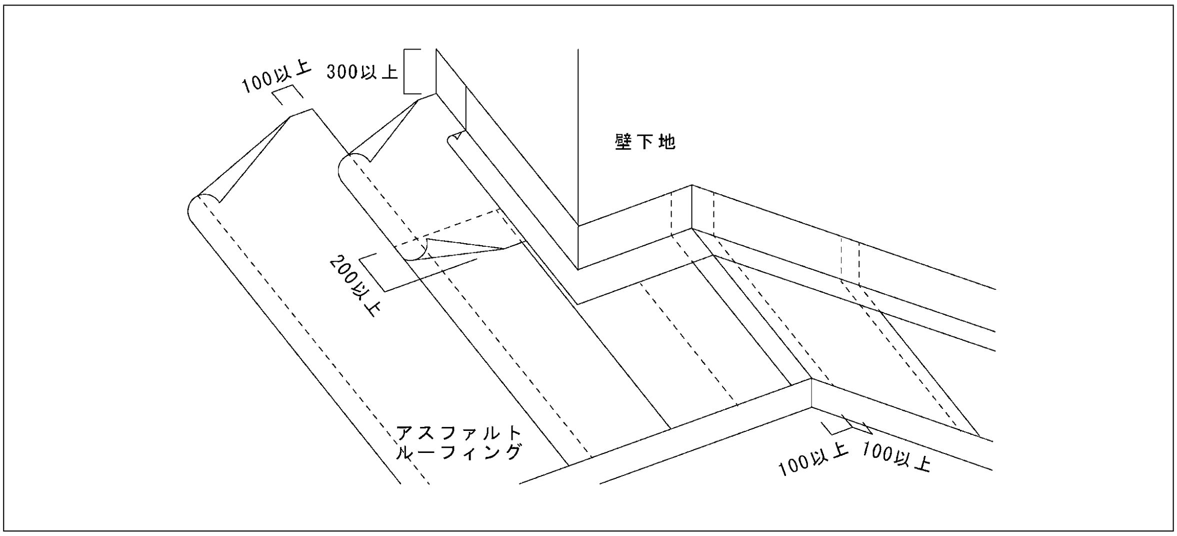
瓦桟工法：瓦桟（水抜き穴付き）を使用して施工します。

縦桟工法：瓦桟と縦桟を使用して施工します。

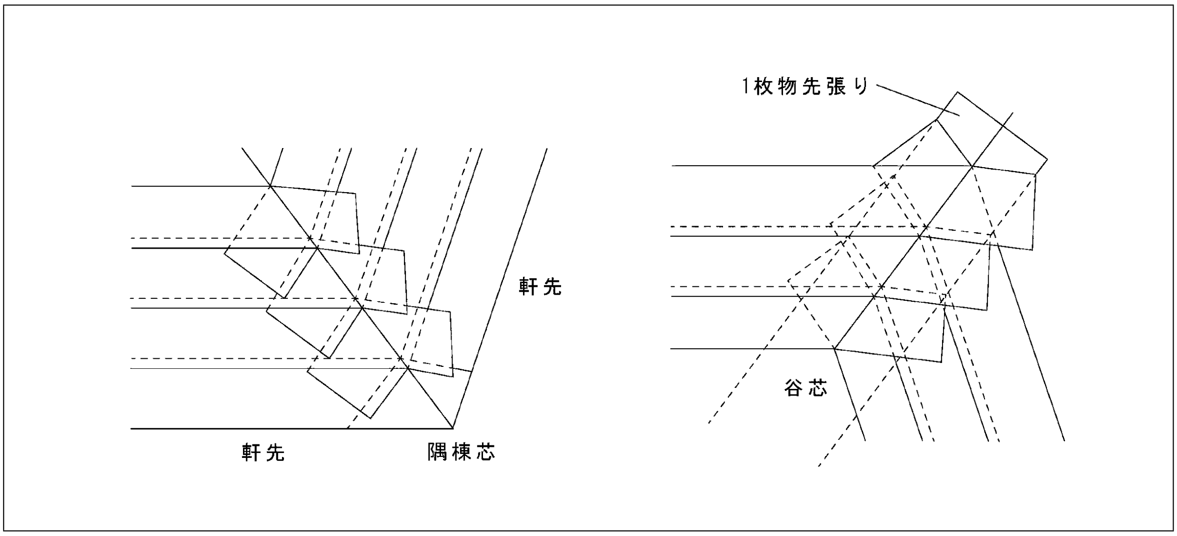
- 降灰地域の場合は、縦桟工法を推奨します。
- すがる部分の流れ寸法は、先端から先端までをサン瓦の働き長さ 364mm の倍数にしてください。

4.2　ルーフィングの施工

■ ルーフィングの張り方



■ ルーフィングの張り方（隅棟・谷部）



- アスファルトルーフィングを桁行方向に平行に横張りしてください。ピンホールができる恐れのある所や施工中に破れた場合は、防水テープなどで補強してください。

  平　部：桁行方向に 200mm 以上、流れ方向に 100mm 以上重ね合わせてください。

  棟　部：本棟芯から両側とも 100mm 以上、隅棟芯から両側とも十分棟を重ね合わせてください。

  片流れ：片流れ頂部を巻き込むように施工してください。

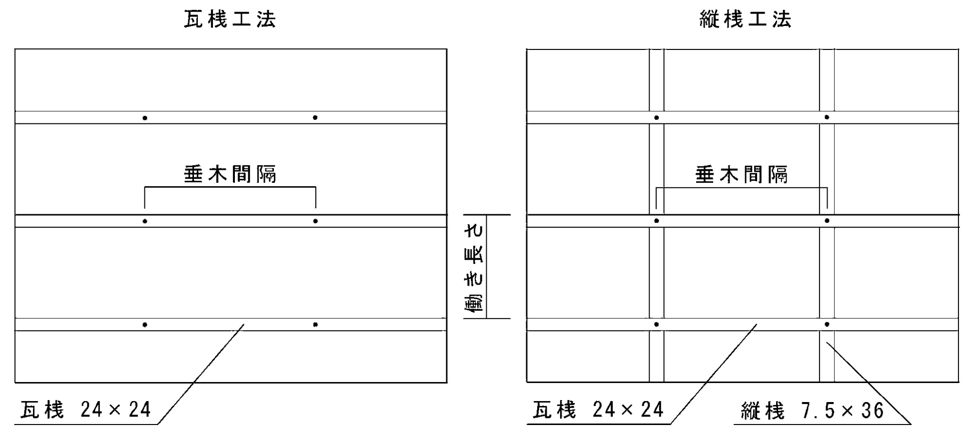
  谷　部：1 枚物のルーフィングを先張りし、その上にルーフィングを左右に重ね合わせてください。

  壁　際：壁面に沿って 300mm 以上立ち上げてください。

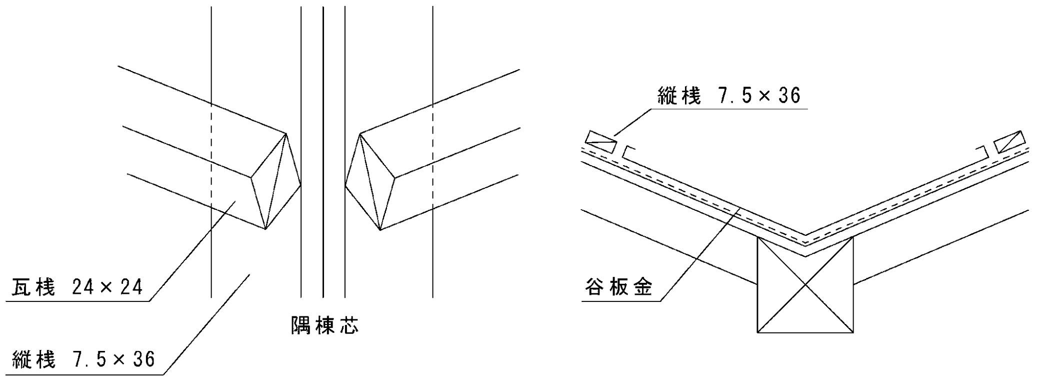
  軒　先：破風板から 15〜20mm 出してください（サイディング 1 枚張りの場合）。

4.3　縦桟・瓦桟の取り付け

■ 縦桟・瓦桟の取り付け方



■ 縦桟・瓦桟の取り付け方（隅棟・谷部、縦桟工法の場合）

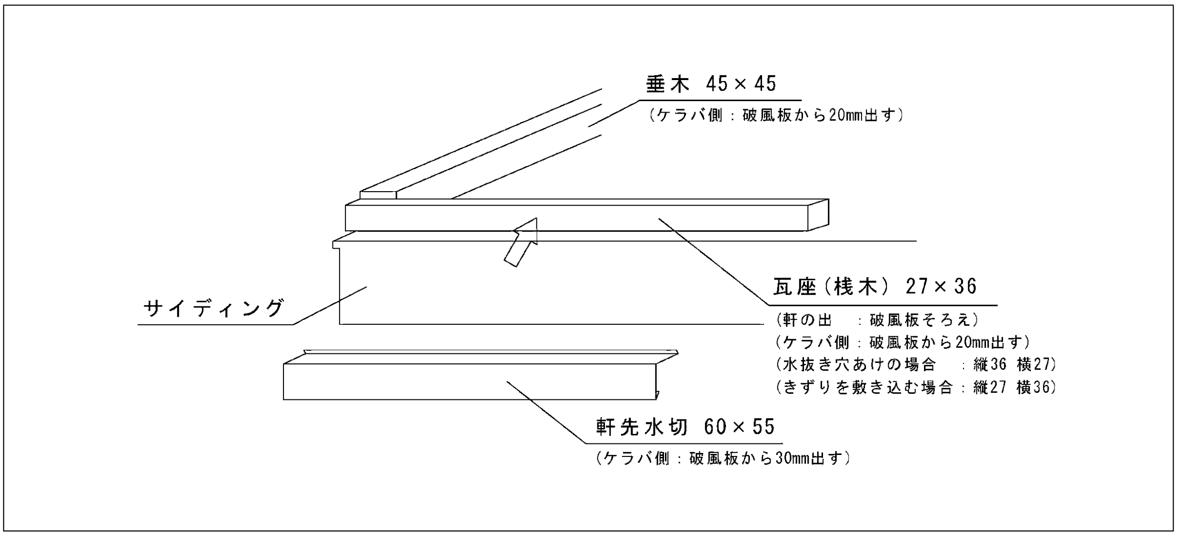


- 縦桟は垂木位置に取り付けてください。瓦桟工法の場合は、縦桟の取り付けは必要ありません。
- 瓦桟は材質・形状が良質のものを墨出し通りにまっすぐに取り付けてください。瓦桟工法の場合は、水抜き機能のある瓦桟を使用してください。
- 隅棟では隅棟芯の両側に縦桟を取り付け、隅棟芯で瓦桟が交わる位置に瓦桟を取り付けてください。瓦桟工法の場合は、縦桟の取り付けは必要ありません。
- 谷部では谷板金の両側に縦桟を取り付けてください。瓦桟工法の場合は必要ありません。
- 以下、特に明記しない限り瓦桟工法の図とします。縦桟工法の場合も同様に施工できます。

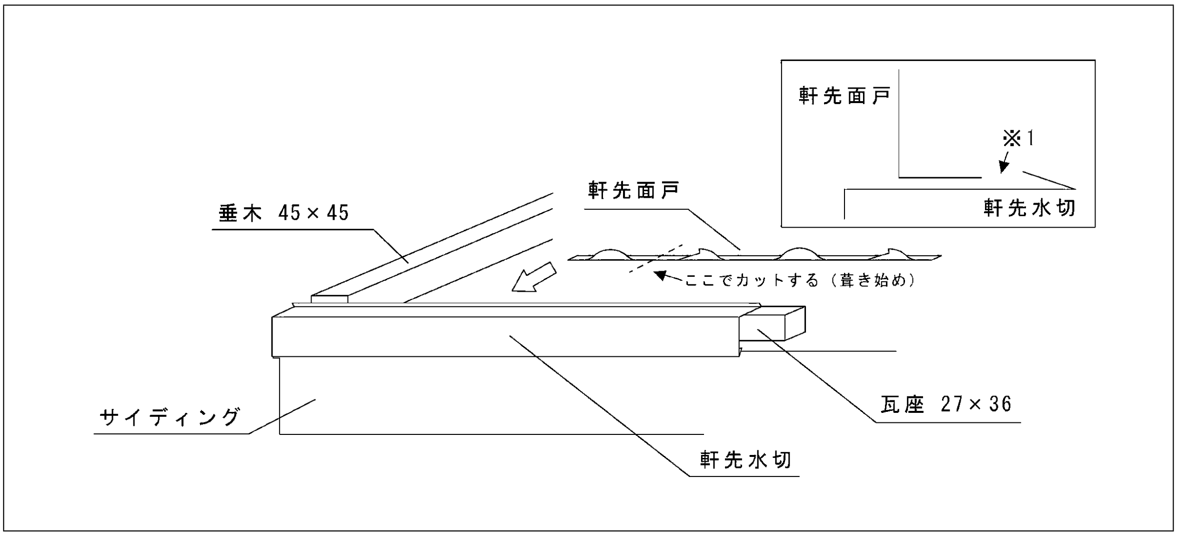
5　標準施工法

5.1　軒先の納まり

■ 軒先水切の納まり

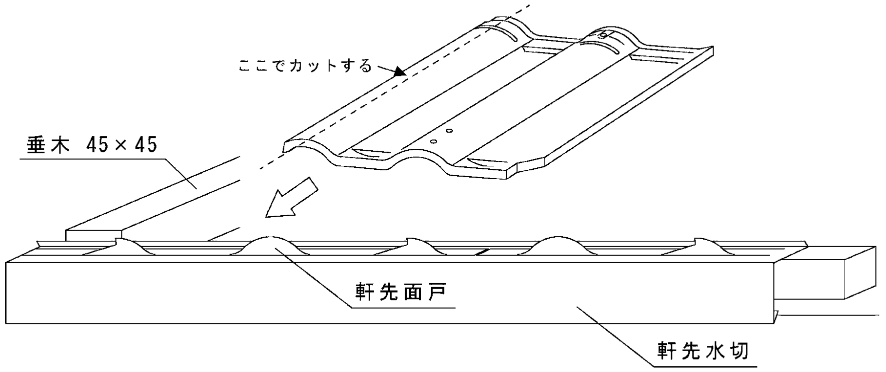


■ 軒先面戸の納まり

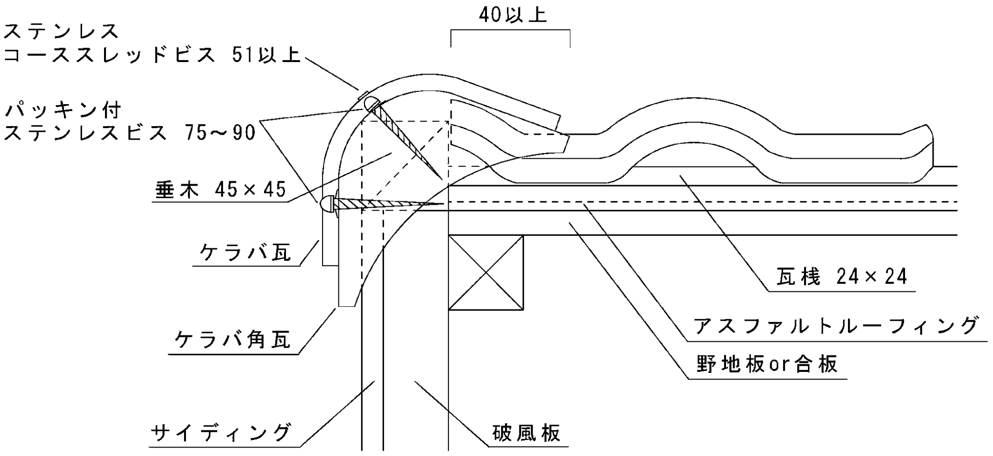


- 軒先部は瓦座、軒先水切、軒先面戸の順に取り付けてください。瓦座は水抜き穴をあけるか、きずりを敷き込んで水抜き機能を設けてください。軒先面戸と軒先水切の折り返し部の間（※1）にL字型ステンレスリング釘固定用の隙間を設けてください。
- 軒先部に広小舞や鼻隠し板を使用する場合は、調整桟木で軒先瓦の高さを調整してください。ケラバ部は広小舞を取り付ける必要はありません。
- ケラバ部は垂木を図のように取り付けてください。

■ 葺き始めのサン瓦

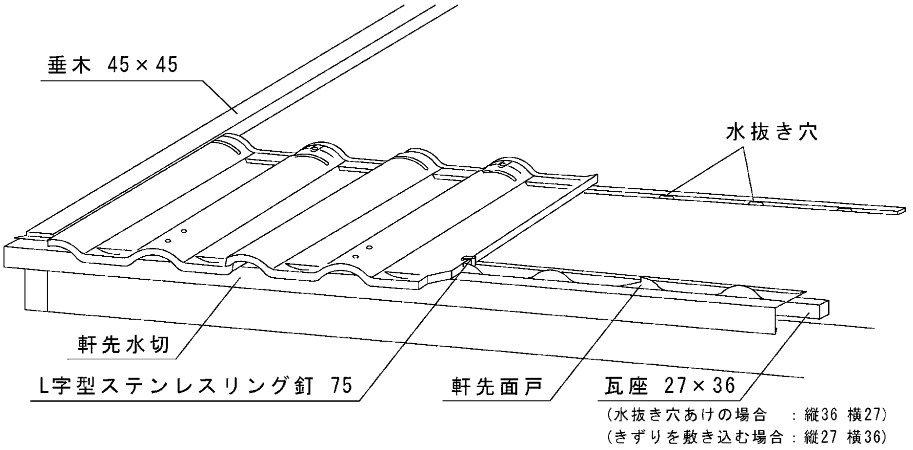


■ 葺き始めのケラバ角部の納まり（断面）

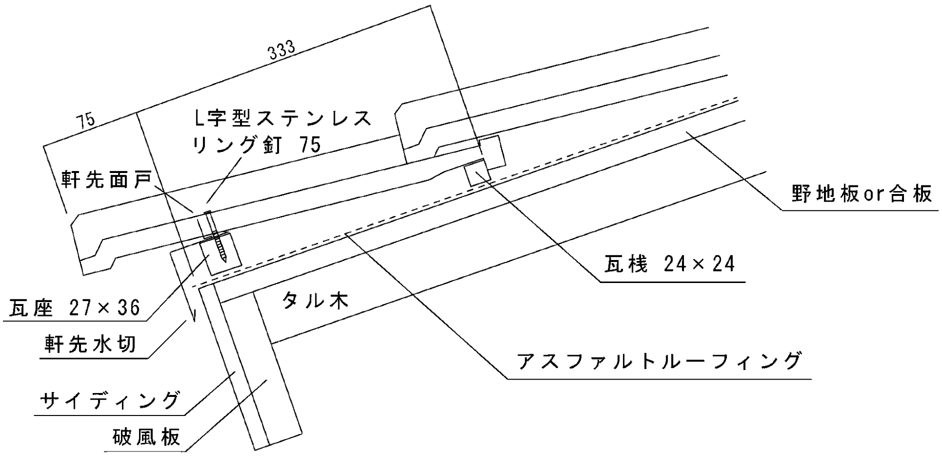


- 葺き始めのサン瓦は重なり部の山の頂部を切断してから葺いてください。
- ケラバ角瓦はケラバと継手下端をそろえて同じ角度で破風板に取り付けてください。軒先水切の左端がケラバ角瓦の内側に当たるように軒先水切の長さを調整してください。
- ケラバ角瓦はサン瓦の頂部から 40mm 以上重ねてください。
- ケラバ瓦、ケラバ角瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで側面と頂部を各 1 か所、ステンレスコーススレッドビスで重なり部を 1 か所固定してください。頂部のみビス頭をシリコンで防水処理してください。
- ケラバ部の垂木の高さが足りない場合は、瓦桟などを垂木の上に取り付けて高さを調整してください。

■ 軒先の納まり（瓦桟工法の場合）

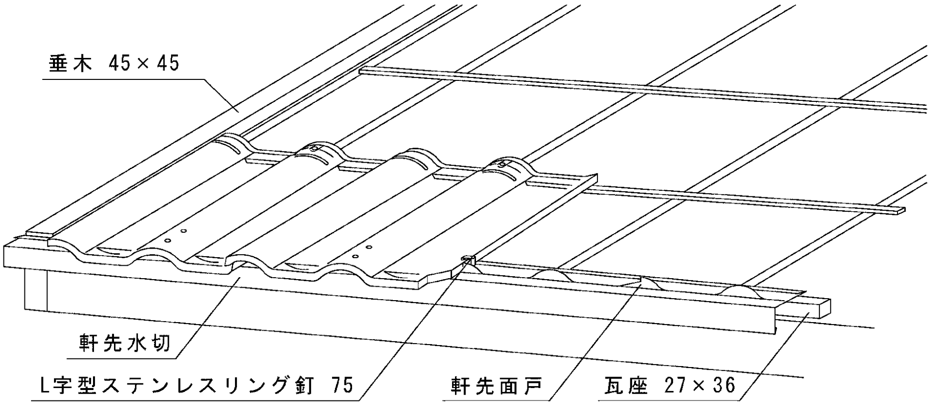


■ 軒先の納まり（瓦桟工法の場合、断面）

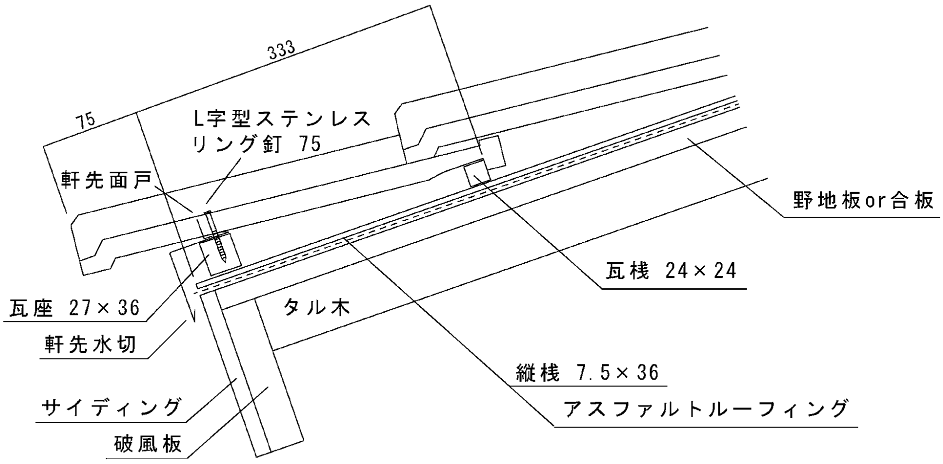


- アスファルトルーフィングは破風板から 15～20mm 出してください（サイディング 1 枚張りの場合）。
- 瓦桟工法の場合は、縦桟の取り付けは必要ありません。
- 全軒先瓦の右端を L 字型ステンレスリング釘で瓦座に固定してください。
- サン瓦は左から右へ葺いてください。仮葺き後、サン瓦を固定します。固定方法は後述のスルーホール工法を参照してください。

■ 軒先の納まり（縦桟工法の場合）



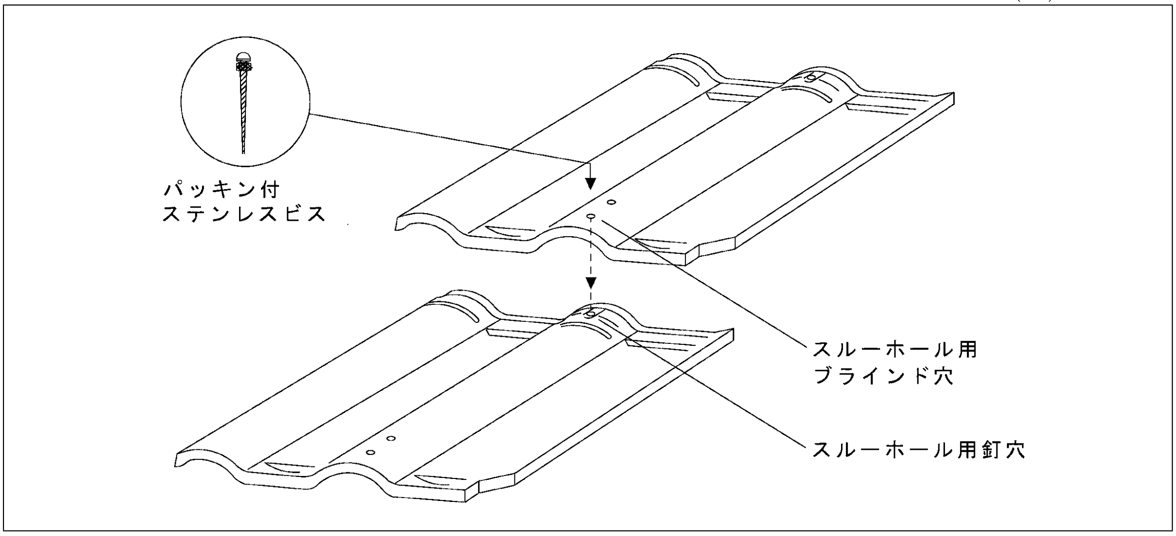
■ 軒先の納まり（縦桟工法の場合、断面）



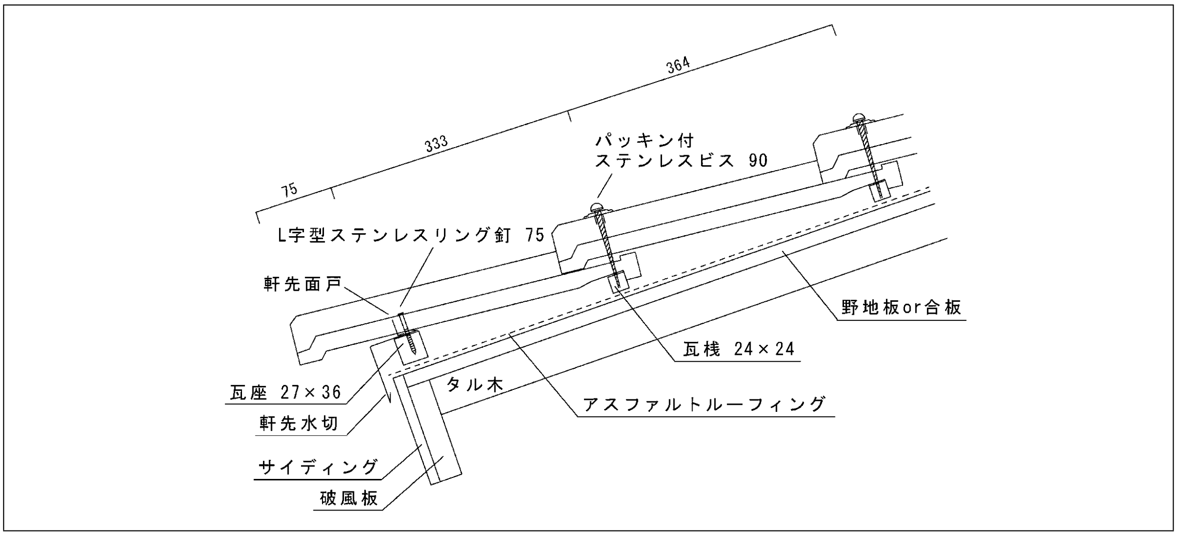
- アスファルトルーフィングは破風板から 15〜20mm 出してください（サイディング 1 枚張りの場合）。
- 縦桟工法の場合は、瓦桟と瓦座に水抜き穴を設ける必要はありません。
- 全軒先瓦の右端を L 字型ステンレスリング釘で瓦座に固定してください。
- サン瓦は左から右へ葺いてください。仮葺き後、サン瓦を固定します。固定方法は後述のスルーホール工法を参照してください。

5.2　サン瓦の固定（スルーホール工法）

■ スルーホール工法（建設省技術評価 第 94302 号、日本国特許 第 3532990 号、(株) コトガワ）

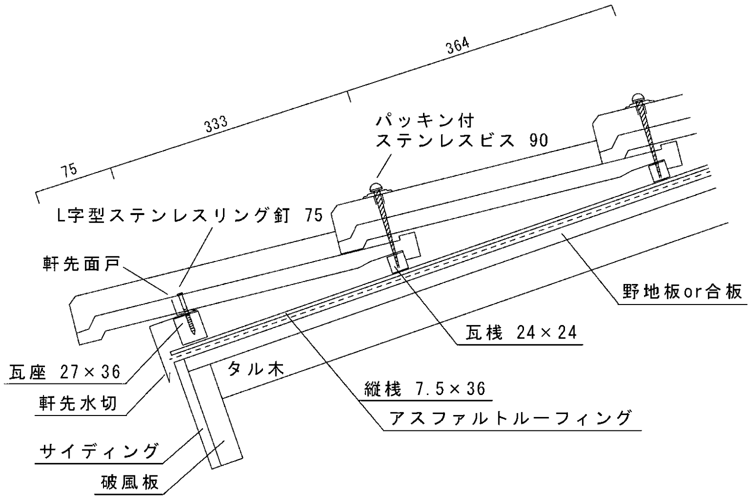


■ スルーホール工法（瓦桟工法の場合、断面）

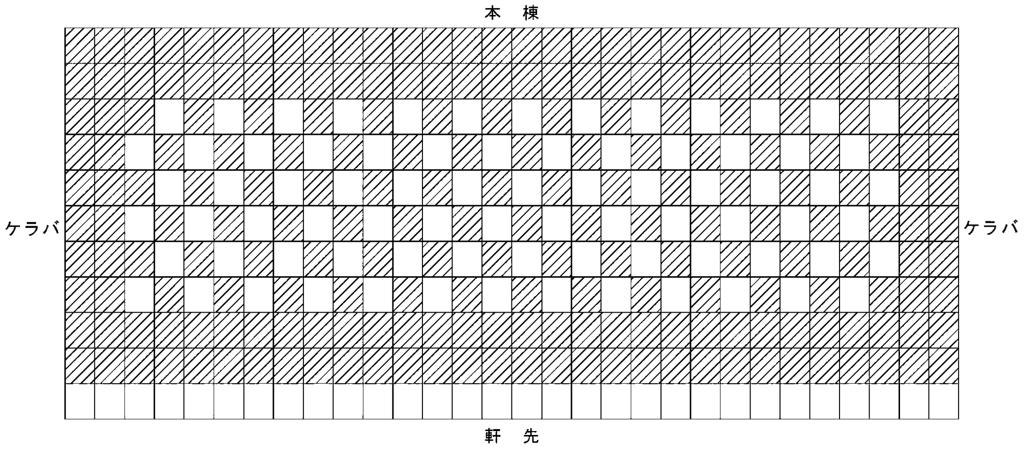


スルーホール工法は中層建築物における勾配屋根において、瓦を屋根下地材に固定する工法です。本工法では、屋根下地材上に瓦を葺く際に、上側に位置する瓦のスルーホール用ブラインド穴と下側に位置する瓦のスルーホール専用釘穴を連通位置に位置させ、スルーホール用ブラインド穴からスルーホール専用釘穴を介して 2 枚の瓦を 1 本のパッキン付ステンレスビスで同時に締め付け固定します。ただし、スルーホール用ブラインド穴は、瓦の表面の水漏れのない位置に設けられているものとします。ユーロベスト S-30 はスルーホール工法に対応しており、本工法に従いサン瓦を固定します。

■ スルーホール工法（縦桟工法の場合、断面）



■ スルーホール工法によるビス留め位置（斜線部）



- 軒先２段目、軒先３段目、ケラバ部から２列目まで、隅棟部から２列目まで、本棟部から２段目までは全てのサン瓦をビス留めしてください。その他の部分は千鳥状にビス留めしてください。
- 白い部分の瓦は、上に位置する瓦（斜線部）と同時に固定されます。

5.3　瓦の差し替え方法

サン瓦が破損した場合は、下記の要領で瓦を差し替えてください。

1. 破損瓦を固定しているパッキン付ステンレスビスを取り外してください。
2. 同時に破損瓦の左右および上部のサン瓦の留め付けビスを取り外してください。
3. 破損した部分の瓦を取り除いてください。簡単に取り外しできない場合は、破損瓦をハンマーで砕いて取り除いてください。
4. 破損瓦のすぐ上部の瓦を手で持ち上げ、差し替え瓦を下方より差し込んでください。
5. 差し替え瓦をパッキン付ステンレスビスで固定してください。
6. 取り外した左右および上部のサン瓦のビスを締め付けてください。

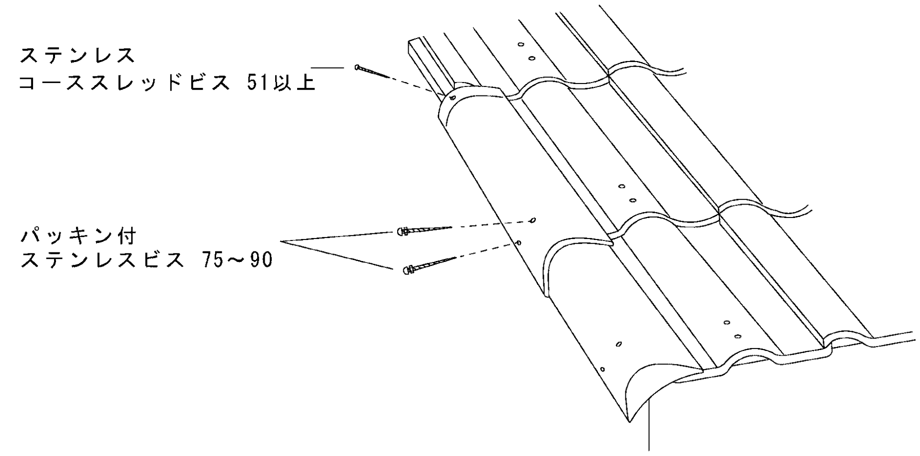
釘留工法との比較

スルーホール工法は通常の釘留工法と比べ容易に瓦の差し替えを行うことができます。

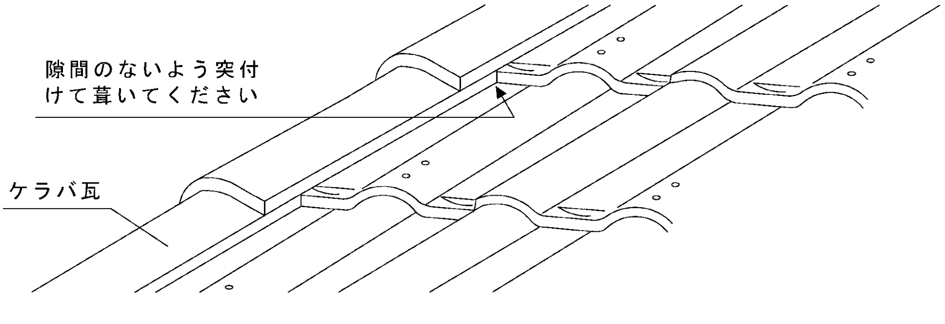
- 破損瓦の固定釘を取り外す際、釘留工法の場合は、バールなどで抜くか、釘切断機で切断して取り外す必要がありますが、**スルーホール工法**の場合は、電動ドライバーなどで留め付けビスを容易に取り外すことができます。
- 釘留工法の場合は、差し替え瓦は釘留めせずシリコンなどで固定するのが一般的ですが、**スルーホール工法**の場合は、再度ビスで瓦を固定できるので、以前とほぼ同等の強度で固定できます。

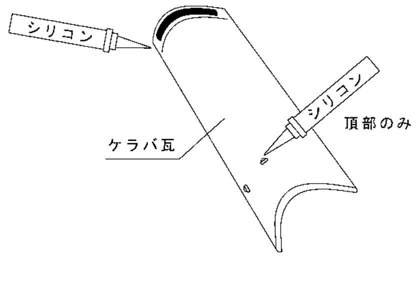
5.4　ケラバの納まり

■ ケラバの納まり



■ 注　意

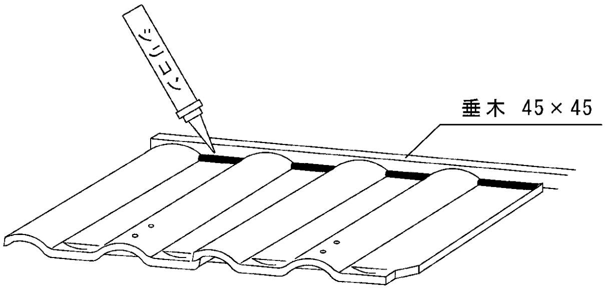




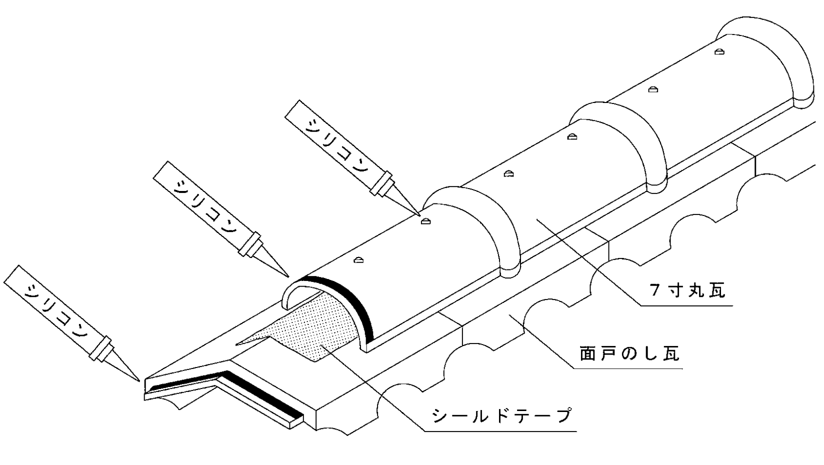
- ケラバ瓦、ケラバ角瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで側面と頂部を各１か所、ステンレスコーススレッドビスで重なり部を１か所固定し、頂部のみビス頭をシリコンで防水処理してください。
- ケラバ瓦、ケラバ角瓦の重なり部にシリコンを入れてから次のケラバ瓦を取り付けてください。
- ケラバ部の垂木の高さが足りない場合は、瓦桟などを垂木の上に取り付けて高さを調整してください。

5.5　本棟瓦の防水処理（切妻・寄棟共通）

■ 本棟際の防水処理



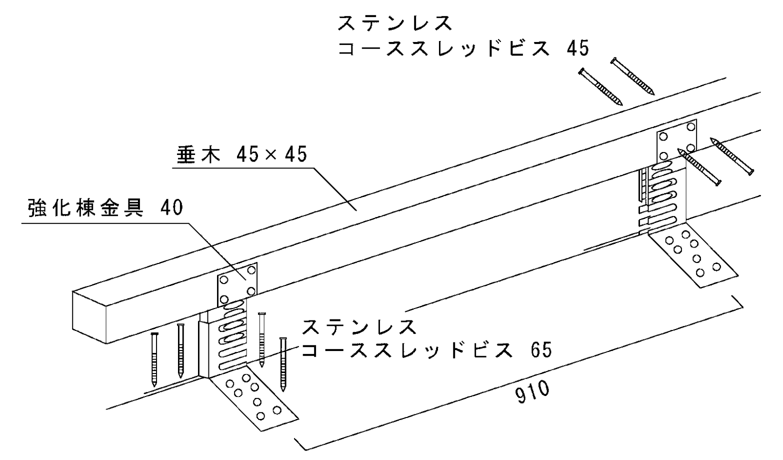
■ 本棟瓦の防水処理



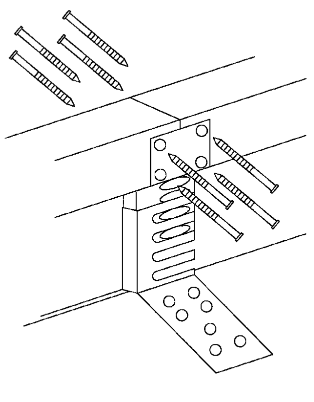
- 本棟際のサン瓦の谷部をシリコンで防水処理してください。
- サン瓦と棟垂木の隙間はできるだけ少なくしてください。本棟際のサン瓦を加工する場合は、必要に応じて瓦桟などで高さを調整してください。
- 面戸のし瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の面戸のし瓦を取り付けてください。
- 7 寸丸瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の 7 寸丸瓦を取り付けてください。
- 7 寸丸瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで 2 か所固定してください。ビス頭はシリコンで防水処理してください。

5.6　本棟の強化棟金具の取り付け（切妻・寄棟共通）

■ 本棟の強化棟金具の取り付け



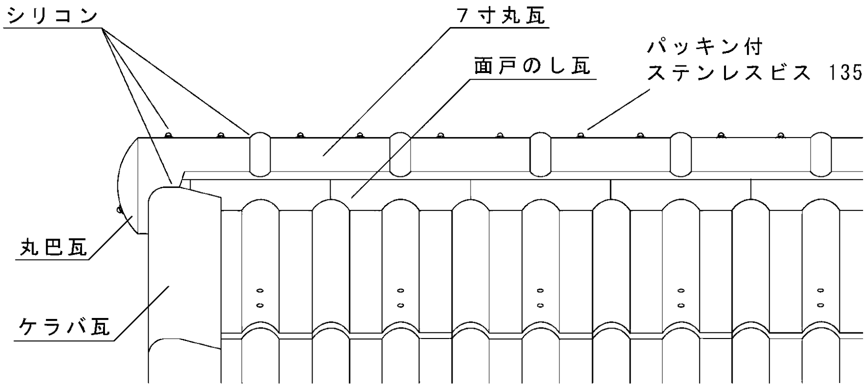
■ 注　意（継ぎ手ができる場合）



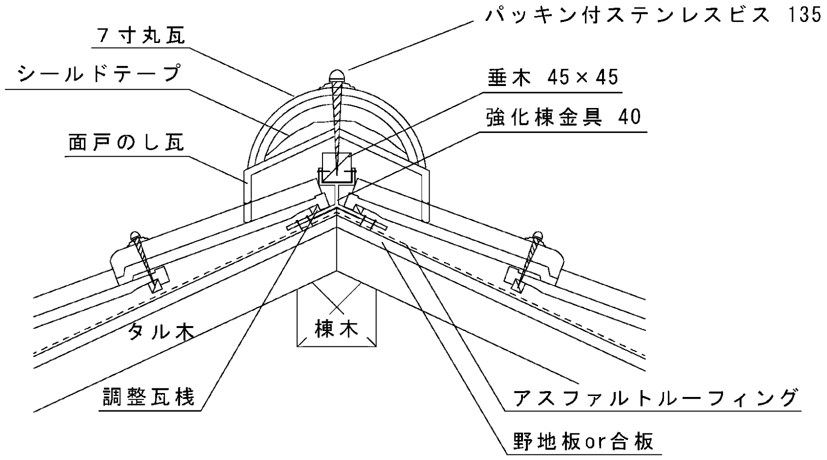
- 強化棟金具（H40mm）は棟芯に 910mm 間隔で向かい合わせにして取り付けてください。910mm 間隔で垂木がたわむ場合は、強化棟金具の本数を増やしてください。
- 垂木を強化棟金具に取り付け、側面と下部をステンレスコーススレッドビスで、片側 2 か所以上、両側合計で 4 か所以上固定してください。
- 垂木の継ぎ手ができてしまう場合は、棟金具の上で継ぎ、側面は片側 4 か所、両側合計で 8 か所固定してください。

5.7　本棟の納まり（切妻）

■ 本棟の納まり



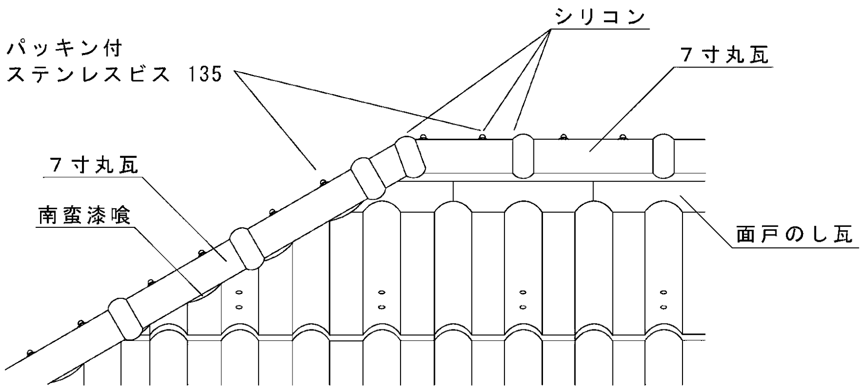
■ 本棟の納まり（断面）



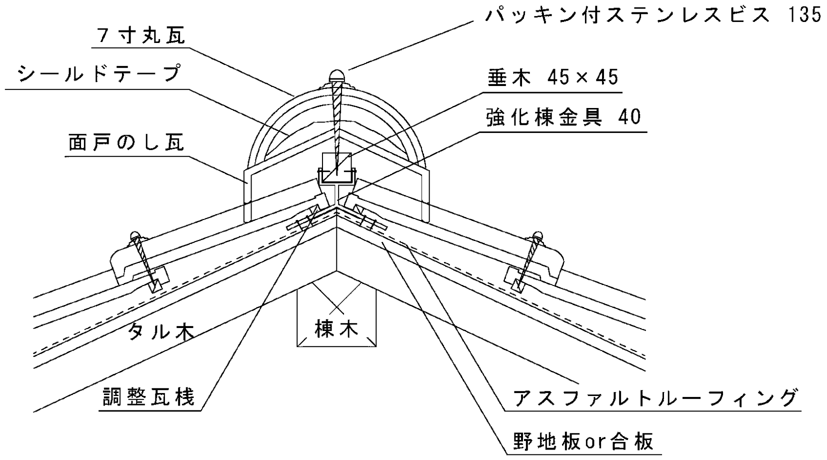
- 面戸のし瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の面戸のし瓦を取り付けてください。
- 7 寸丸瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の 7 寸丸瓦を取り付けてください。
- 7 寸丸瓦、丸巴瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで 2 か所固定してください。ビス頭はシリコンで防水処理してください。
- 換気が必要な場合は、棟部に換気用の穴をあけて棟換気を取り付けてください。

5.8　本棟の納まり（寄棟）

■ 本棟の納まり



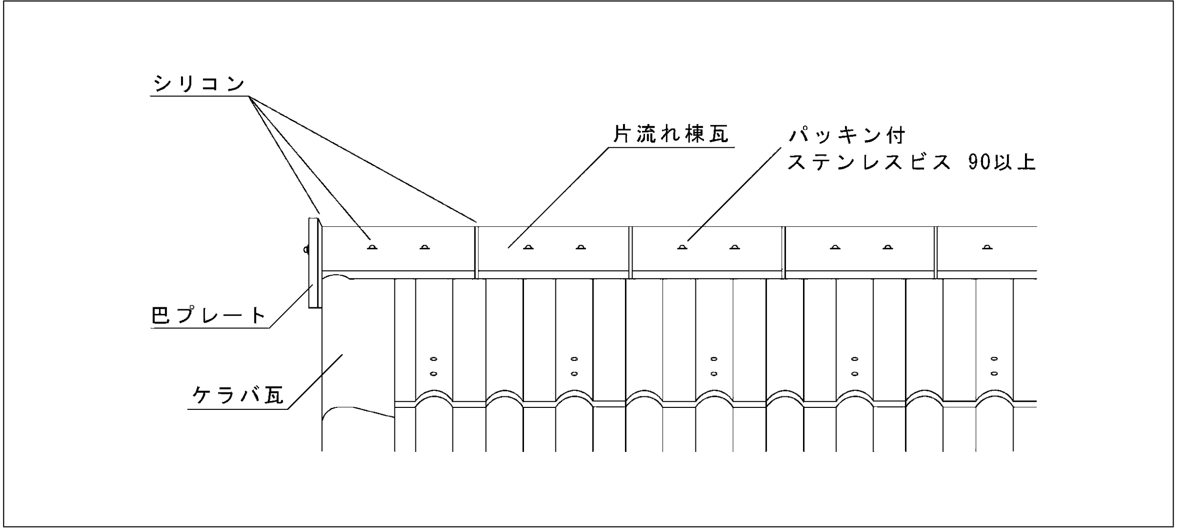
■ 本棟の納まり（断面）



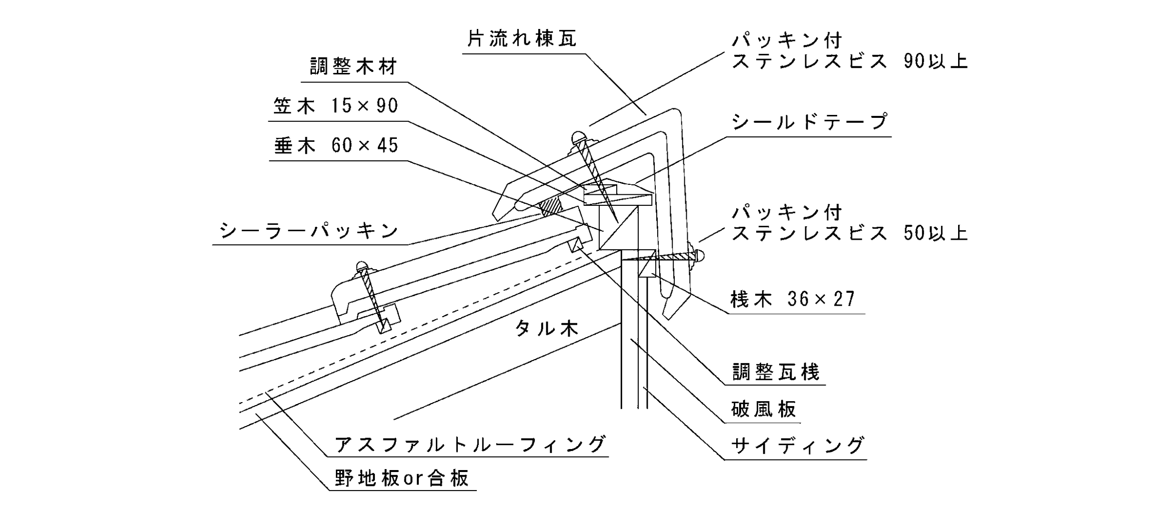
- 面戸のし瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の面戸のし瓦を取り付けてください。
- 7寸丸瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の7寸丸瓦を取り付けてください。
- 7寸丸瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで2か所固定してください。ビス頭はシリコンで防水処理してください。
- 換気が必要な場合は、棟部に換気用の穴をあけて棟換気を取り付けてください。

5.9　片流れ棟の納まり

■ 片流れ棟の納まり

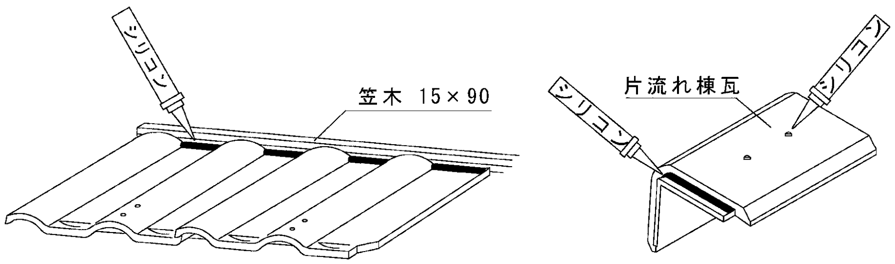


■ 片流れ棟の納まり（断面）

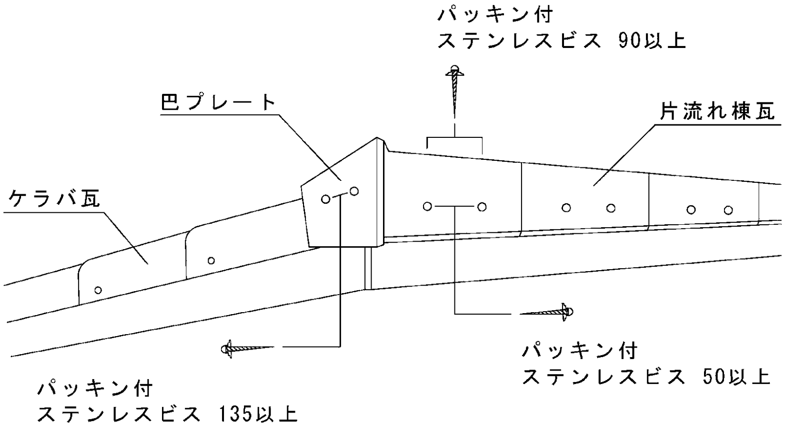


- サン瓦と笠木の隙間をシールドテープで防水処理してください。
- サン瓦と片流れ棟瓦の隙間をシーラーパッキンで防水処理してください。
- 片流れ棟瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の片流れ棟瓦を取り付けてください。
- 片流れ棟瓦の高さ調整が必要な場合は、垂木と笠木の間、または笠木の上に調整木材を取り付けて、高さを調整してください。
- 換気が必要な場合は、棟部に換気用の穴をあけて棟換気を取り付けてください。

■ 片流れ棟際のサン瓦と片流れ棟瓦の防水処理



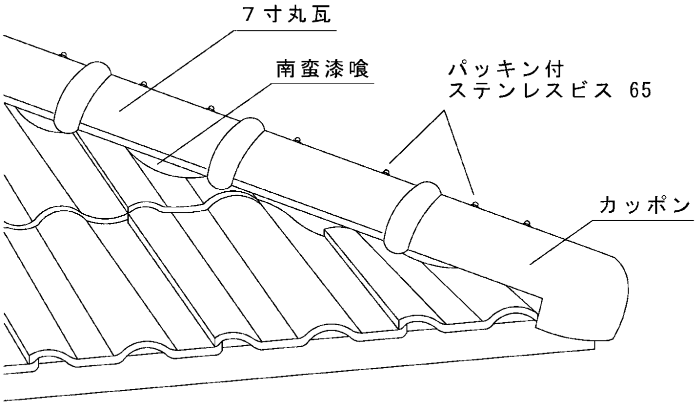
■ 巴瓦の納まり



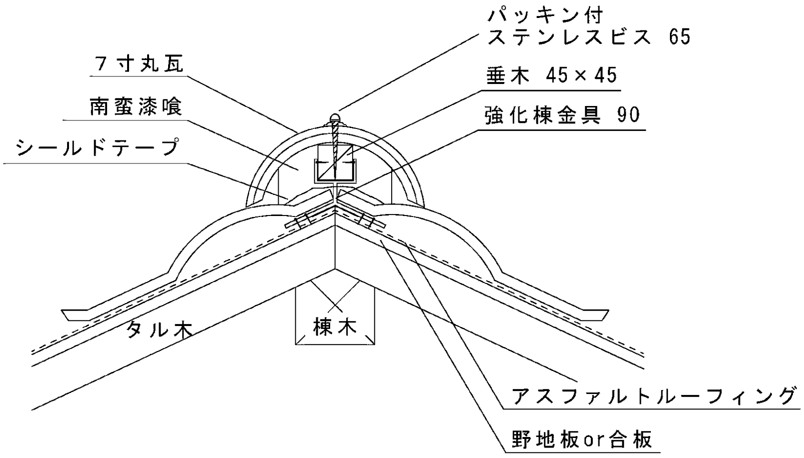
- 片流れ棟瓦はドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで上面 2 か所、側面 2 か所固定してください。上面のビス頭はシリコンで防水処理してください。
- 巴プレートはドリルを使ってビス穴をあけ、垂木などにパッキン付ステンレスビスで 2 か所固定してください。
- 巴プレートと片流れ棟瓦との取合部分はシリコンで防水処理してください。

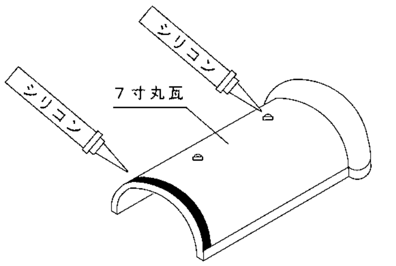
5.10　隅棟の納まり

■ 隅棟の納まり



■ 隅棟の納まり（断面）

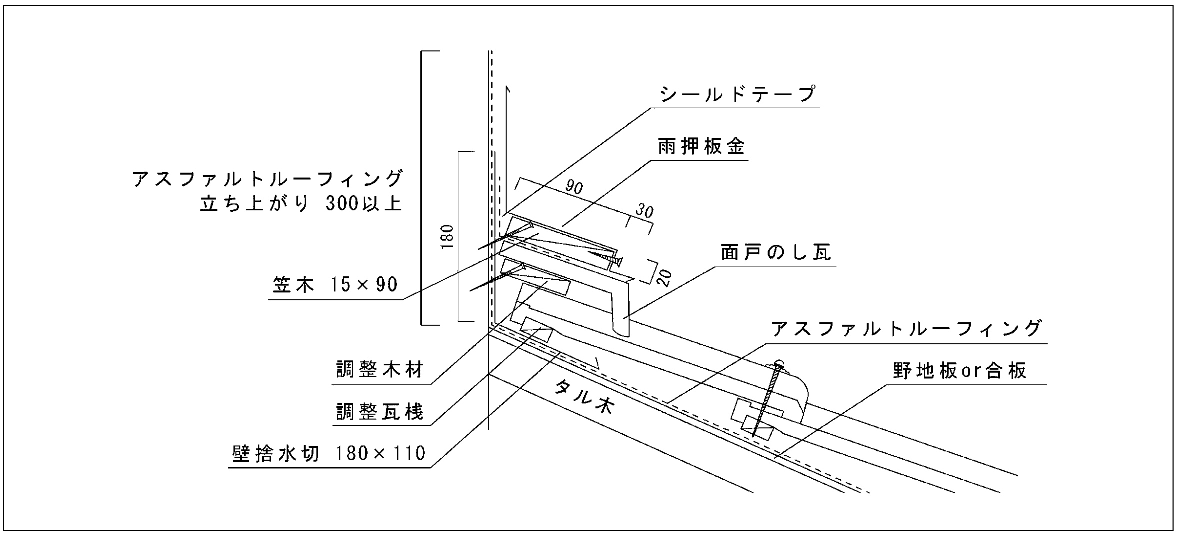




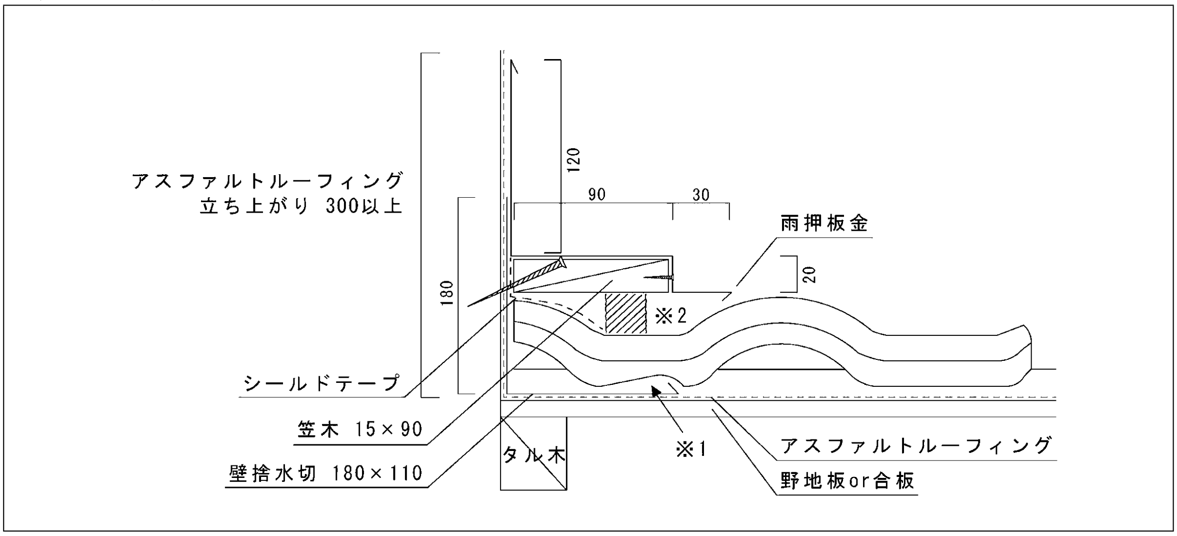
- サン瓦と強化棟金具の隙間はできるだけ少なくしてください。
- 7寸丸瓦の重なり部にシリコンを入れてから次の7寸丸瓦を取り付けてください。
- 7寸丸瓦、カッポンはドリルを使ってビス穴をあけ、パッキン付ステンレスビスで2か所固定してください。ビス頭はシリコンで防水処理してください。

5.11　壁際の納まり

■ 水平壁の納まり



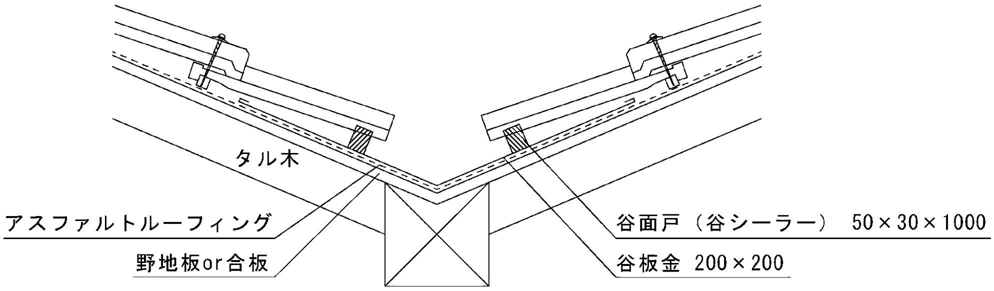
■ 流れ壁の納まり



- アスファルトルーフィングは壁面に沿って 300mm 以上立ち上げてください。
- 水平壁際の加工したサン瓦は瓦桟などで高さを調整してください。
- 流れ壁際のサン瓦は、壁捨水切の折り返しに当たらないように裏側の引掛け部分を加工してから葺いてください（※1）。雨水の流れを妨げる部分も加工してください。
- サン瓦と雨押板金の隙間は、必要に応じてシーラーパッキンなどで防水処理してください（※2）。
- 板金はステンレス釘で固定してください。
- 笠木は大工工事とします。雨押板金と壁捨水切は板金工事とします（寸法は打合せ）。

5.12　谷の納まり

■ 谷の納まり



- 谷板金はジョイント部にシリコンを入れて 100mm 以上重ね合わせてください。
- 谷上部まで谷面戸（谷シーラー）を取り付けて隙間を塞いでください。
- 谷際で加工したサン瓦はドリルを使って穴をあけ、釘で固定してください。
- 加工したサン瓦が釘で固定できないくらい小さい場合は、ステン線で瓦桟に（または瓦同士を）緊結してください。
- サン瓦の加工面は塗料で補修してください。
- 谷際のサン瓦は、谷板金の折り返しに当たらないように加工してください。
- 谷板金は板金工事とします（寸法は打合せ）。

特許と技術で
安心安全な商品と施工を

有限会社 瀬戸口瓦工場

〒895-2104　鹿児島県薩摩郡さつま町柏原 3100
TEL 0996-53-1078 ・ FAX 0996-52-3720
E-mail setokuchi@mountain.ocn.ne.jp
URL http://setokuchi.jp/

Setokuchi